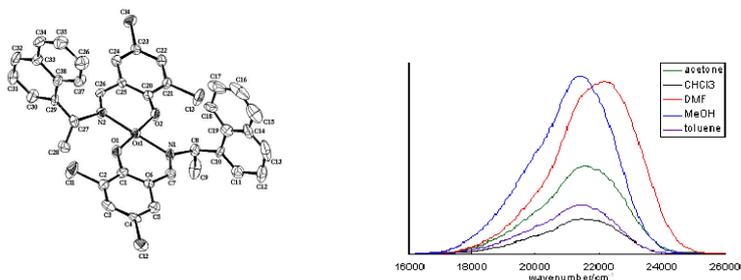


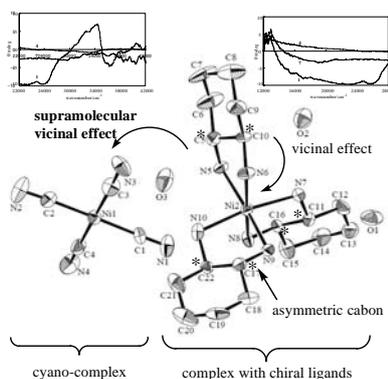
(2) 金属酵素（モデル）や均一系触媒モデル錯体と有機分子からなる複合系の構築と応用（約3名）

例えば、金属酵素（モデル）と、光応答性有機分子・高分子等からナノ複合系を構築し、錯体部位の電子状態の制御を行い、発光材料、スイッチング素子、バイオ燃料電池などとして応用。



(3) 無機化学諸概念の超分子・複合体への拡張と、界面複合機能材料としての応用（約3名）

例えば、共結晶中におけるアキラル塩でのキラル塩の不斉配位子の隣接効果の体系化。また、電子移動が期待される金属や酸化物微粒子（光触媒等）表面と共存金属錯体間の、電荷移動遷移や共有結合性を指標とした物性評価の体系化と、それらの界面複合機能材料としての利用。



(4) 放射光・理論計算を多用した構造—物性評価、外場制御測定法の導入を視野に入れる。（若干名）

7. 平成20年度外研 募集しない

8. 要望事項

原則として1人ずつ独立したテーマ（化合物）を研究して、錯体合成・物性測定・構造解析・理論など、広い（あるいは専門特化した）スキルを学んでもらいます。大学院進学希望、就職希望など、それぞれに合わせた内容やテーマを用意しますので、相談してください。基礎的な勉強や地道な実験が嫌いでない人、あまり細かく指示されなくても、自分で考えて判断し責任もって柔軟に行動できる人を望みます。新しく立ち上げる研究室生活を通じて、論理的思考、プレゼンテーション、コミュニケーション等も身に付けて下さい。

9. その他

新研究室なので詳しいことは、着任予定教員（akitsu@stanford.edu）まで、電子メールで問い合わせてください。